

状 況 写 真

区分 自主

下屋久 営林署

(様式 6)



平成 2 年度 技術開発実施報告・計画

課題	群状択伐によるヤクスギ天然林施業法			継続・新規 継続	作業課 計画課	開発 箇所	下屋久
目的	伐期令240年、回帰年30年とする群状択伐による天然林施業について検討する。			指示・自主 自主	造林課	箇所	
				開発期間	昭和60年度-----平成5年度		
年度別実施経過	2年度実施報告	3年度実施計画	備考(評価及び普及計画等)				
	<p>1、調査事項</p> <p>(1) 植生調査</p> <p>(2) 稚樹発生調査</p> <p>(3) 種子豊凶調査</p> <p>事業費(技術開発) _____千円</p>	<p>1、調査事項</p> <p>(1) 植生調査</p> <p>(2) 稚樹発生調査</p> <p>(3) 種子豊凶調査</p> <p>(4) 生長量調査</p> <p>(5) 相対照度調査</p> <p>(6) プロット標柱の取り替え</p> <p>(7) 一部刈出し箇所の検討と実行</p> <p>事業費(技術開発) _____千円</p>					

試験経過記録(その1)

区 分 自 主

下 層 久 営 林 署

(様式'4)

課 題

群状択伐によるヤクスギ天然林施業法

1 試験地設定

(1) 場 所 平瀬国有林9林班の小班

(2) 面 積

区域面積 12.64 ha

試験地面積 1.77 ha

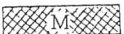
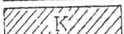
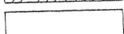
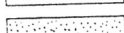
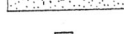

(3) 調査プロットの設定

10伐区面積1.77haにプロット(1m×1m)を1伐区当たり3ヶ所計30ヶ所設定した。

試験地設定図

図-1

凡 例

-  M メイヤクスギ保残区
-  K コスギ保残区
-  第2.3回帰群状択伐群
-  伐採区
-  調査プロット
-  ××××× 母樹分布ヶ所



- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

2 調査結果

(1) 架線集材方法及び作業条件因子

表-1

伐区	作 業 条 件 因 子											
	架線方式	スパン	面積	吊荷重量	主索種類	索傾斜	キャリア種類	集材距離	横取距離	立木1本当材積	ha当り立木	
		m	ha	kg		°		m	m	m ³	本数	m ³
1	エンドレス タイラー	388	0.74	2,400	東京製鋼 スカイロープ 6×F ₁ {(a+7) +7} 26m/m	6°	片特式 BCP54	134	14	0.85	492	4.16
2	〃	302	0.30	2,400	〃	9°	サイド アーム	103	8	0.58	711	4.13
3	〃	259	0.73	2,600	〃	11°	〃	109	16	1.08	368	4.00

(2) 作業工程

表-2

伐区	架線作業等実績延人員					集 造 材 人 工 数			出 材 量		実績 工程		
	機械掘付	索架設	索撤去	盤台設	盤台撤去	伐倒	全集	幹材	土埋木材	計		山元	最終
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	m ³	m ³	m ³
1	3,375	29,125	15,000	30,125	11,625	25,125	201,750	0	226,875	300,725	216,478	2.28	
2	6,875	18,875	5,750	22,500	9,750	20,250	136,500	79,500	236,250	130,979	326,628	1.94	
3	—	21,875	16,625	29,875	12,875	16,750	126,125	91,750	217,875	221,529	259,458	2.21	

注) 1: 3伐区の集材機位置及び元柱は、2伐区と変らず。

2: 実績工程は、土埋木を含む。

状 況 写 真

区 分 自 主

下 屋 久 管 林 署

(様 式 6)



平成3年度 技術開発実施報告

様式 2

下屋久 営林署

課題		群状択伐によるヤクスギ天然林施業法					
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 指示・ <input checked="" type="checkbox"/> 自主 任意	担 当	作	業	開 発 箇 所	下屋久	開 発 期 間	平成3年 ～7年 (継続)
		計 画 造	画 課 課				
年度別実施経過				平成3年度 実施報告			
省 略				1. 植生別発生量調査 別表1のとおり 2. 植生別生長調査 別表2のとおり 3. 相対照度調査 別表3のとおり			

試験経過記録

区分 自主

下屋久 営林署

(様式4)

表1. 植生別発生量調査表

プロット 数	年度 樹種	H.		増減 (B-A)	備 考
		A (A)	B (B)		
30	スギ	193	202	29	
	他A	17	26	9	モミ、ツガ
	ヒサカキ	178	136	-42	
	ハイノキ	47	43	-4	
	他乙	81	64	-17	
	計	496	471	-25	

表2. 植生別生長調査表

プロット 数	樹種	樹高 階層 cm	~ 10	11 ~ 20	21 ~ 30	31 ~ 40	41 ~ 50	51 ~ 100	101 ~ 150	151 ~ 200	201 ~ 250	251 ~ 300	計
			10	20	30	40	50	100	150	200	250	300	
30	スギ	~ 5	103	73	6	3	4	1					190
		6 ~ 10	1		1	2	2						6
		11 ~ 20						2	3				5
		21 ~ 30									1		1
	他A	~ 5	18	3	1		1	1					24
		6 ~ 10						2					2
		11 ~ 20											
		21 ~ 30											
	ヒサカキ	~ 5	2	15	8	9	6	10	1	1			52
		6 ~ 10					1	28	29	4			62
		11 ~ 20						2	11	6			19
		21 ~ 30							2	1			3
	ハイノキ	~ 5				2		3					5
		6 ~ 10						6	5	2			13
		11 ~ 20						1	14	6	2		23
		21 ~ 30								1		1	2
	他乙	~ 5	9	5	3	5	1	4					27
		6 ~ 10					1	22	1				24
		11 ~ 20						10	2				12
		21 ~ 30								1			1
	計		133	96	19	21	16	92	69	22	2	1	471

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。